

電気通信事業におけるサイバー攻撃への適正な対処の在り方に関する研究会  
ワーキンググループ（第11回）議事要旨

1. 日時

令和3年8月31日（火）10:00～12:00

2. 場所

Web 開催

3. 出席者

（1） 構成員

宍戸主査、森主査代理、井上構成員、木村孝構成員、小山構成員、齋藤構成員、鎮目構成員、丸橋構成員、吉岡構成員

（2） 総務省

北林電気通信事業部長、藤野官房審議官、小川消費者行政第二課長、梅村サイバーセキュリティ統括官室参事官、中溝サイバーセキュリティ統括官付、高田消費者行政第二課企画官、伊藤消費者行政第二課課長補佐、廣瀬サイバーセキュリティ統括官室参事官補佐

（3） その他（主査により参加が認められた者）

則武 智 一般社団法人 ICT-ISAC 事務局次長

4. 議事模様

（1） 前回 WG における意見を踏まえた追加説明及び「第四次とりまとめ（案）」について

事務局から、（1） 前回 WG における意見を踏まえた追加説明及び「第四次とりまとめ（案）」について説明が行われた。

主なやり取りは以下のとおり。

- ・ フロー情報をどう収集しているかについて事務局から説明がありよく分かった。手段の相当性の要素として、既に設備投資等のために取得

しているフロー情報を使って C&C サーバの検知を行うということや、例として挙げられているサンプリングレートについても、とりまとめ案に記載した方がよい。

- ・ サンプリングレートについては、「1万分の1」という数字が挙げられているが、これはあくまで一例であるということに留意が必要である。
- ・ 今回の事務局説明により、フロー情報分析による C&C サーバ検知については具体的な先行研究があるということを示してもらったので、試みの意義があると思う。
- ・ 具体的な先行研究があることについても、とりまとめ案に記載した方がよい。
- ・ C&C サーバ検知の実運用の際には、NICT から ISP へ当該検知を補強する情報の提供もできるのではないかと考えている。

## (2) 閉会

今回の議論を踏まえた第四次とりまとめ（案）の修正等については、央戸主査に一任された。また、修正後の内容について、次回の親会（第7回）に報告する旨、事務局から説明が行われた。

以上